

■ 科目名 キャリアモデル・ケーススタディ(成城大学)

■ 副題 諸先輩のキャリアから学ぶ

■ 科目群 全学部共通教育科目

■ 対象 全学部2,3,4年生 選択科目

■ 開講期・単位数 後期・2単位

■ 授業の内容

本科目は、他者のキャリアをケーススタディしながら自らのキャリア観を醸成していく科目です。諸先輩の修羅場・土壇場・正念場に焦点を当て、想定外の出来事をどのように乗り越え今に至っているか。経験や学びがどのように今に活かしているかといった「プロセス」について車座になり近い距離で議論します。

私たちは普段、新聞や雑誌上で、人の人生について記された文章を読んだり、あるいは、カフェで隣のテーブルの人生相談を耳にすることもあります。「そういう生き方もあるんだ」、「この人は随分苦労してきたんだ」と他者の人生を観て、少なからず影響も受けています。無意識的に「キャリアモデル・ケーススタディ」を行っています。

この科目ではケーススタディの場を授業として用意し、様々なアプローチで人の生き様を追究します。趣旨のひとつは、日頃から「キャリアモデル・ケーススタディ」を行なうこと(客観視)を習慣づけていくことです。そしてもうひとつは、授業でとりあげるキャリアモデルの人生と一緒に「旅」(タイムマシンに同行)をし、もし自分だったらどう意思決定をするか、どう行動するかを(主観的に)考えます。

授業は、成功者の成功部分に焦点を当てるのではなく、また、エリートと言われる人たちの生き方を目指す授業でもありません。人がどんな人生観を持ち、修羅場を乗り越えてきたか、何が要因で価値観が変わり物事を受け容れたか。その過程で見える景色がどのように変わったか。それぞれが自身の経験と重ねながら生きかたの視野を拡げていきます。

授業は3つのラウンドで構成しています。①ゲストを招き車座になって生き様を語り合うセッション。②著名人の生き様をグループで分析しプレゼンテーションを行い、クラス全員での議論に発展させる。③個人課題「他人史」の作成。この3つのラウンドを通して、自分はキャリアをどのように歩んでいこうか・いくのだろうかを考えていきます。誰にも人生にドラマがある。そしてそのすべてに意味がある。生活環境も価値観・仕事観も異なる、一人ひとりの生き様に正面から向き合う、そして、そこに共通するものは何かを考えていきます。

■ 到達目標

諸先輩方が予期せぬできごとをどのように乗り越え、偶然や出逢いをどのようにチャンスに変えて今に至ったか、キャリアルート(人生のプロセス)の様々な事例を聞き、調べ、自分のキャリアのヒントとし、在りかたを追究し意味づけができるようになる。

■ 授業の方法

ゲストセッション:お越しいただいたゲストに、これまでに直面した課題、乗り越えた際の原動力、転機となった出逢い、きっかけ、などをお話いただき、質疑応答を行なう。ゲストのスピーチは約25分間。幼少時代から今に至るまでの物語、節目や出逢い、修羅場や土壇場、大切にしていることなどを自由にお話いただく。スピーチの後は50分間の質疑応答を行なう。(質問例:「それは、どのようなことがきっかけで?」、「その場面をもう少し詳しくお話いただくことは可能でしょうか」、「それが今の〇〇さんのキャリアにどのようにつながっていますか」)

キャリアモデル分析(グループ課題):グループごと著名人を選び、そのかたのキャリアを分析する。新聞、書籍、ホームページをはじめとしたメディアのほか、生き様、節目、出逢い、困難を乗り越えた原動力、その人らしさ、を分析し、PowerPointを活用しながらプレゼンテーションを行なう。エリートと呼ばれる人たちの成功体験の中にも、これまで知らなかったどん底や試練がある。また、部分ごと分析をしていくと、その生き方なら自分自身もできるかもしれないといったチャンスも見つける。

「他人史」の作成(個人課題):ユニークなキャリアを構築した有名人の成功者物語は成功の後追い解釈ともいえる。なるほどと思いつつ自分にはそうはできないと、自分とは違う世界の話と引いてしまうこともある。そこで、身近な人をモデルに「他人史」を作成する。インタビューを通してその方のキャリアを引き出し一緒に意味づけます。他者のキャリアに、鳥の目(俯瞰)、虫の目(詳細)、魚の目(時間軸でながれを読みながら)で向き合い、冊子として完成させモデルに贈呈する。

■ 授業の計画

1. オリエンテーション:事例シナリオを読み趣旨を共有する
2. 人間関係形成ワーク:人の気持ちを理解する
3. 「社会構成主義とナラティブ・アプローチ」(マーク・サビカス)/他人史作成ガイダンス
4. プロのライターより、他者のキャリアを活字にする、そのインタビューと執筆について学ぶ
5. キャリアモデル分析/他人史依頼ロールプレイング
6. キャリアモデル分析/他人史取材ロールプレイング
7. 人間関係形成ワーク:人の思いを尊重する
8. ゲストセッション:セクシュアル・マイノリティについて考える(予定)
9. ゲストセッション:「BIG ISSUE」誌販売を通しての働きがい(予定)
10. キャリアモデル分析
11. ゲストセッション:生と死についてあらためて考える(予定)
12. キャリアトーク:卒業生を招き自由なスタイルでトークセッション
13. キャリアモデル分析プレゼンテーション
14. 他人史プレゼンテーション
15. 授業の総括・総まとめ

■ 授業以外の学習(予習・復習等)

各回に記入するワークシートや実習課題の完成、成果発表・冊子化の準備等。授業時間外もメンバーと積極的に交流し、ダイアログ(対話)の場を自らつくること。

■ 成績評価の基準と方法

1. 授業への参加度(56%), 2. 他人史の実績(30%), 3. プレゼンテーションをはじめ貢献と活動成果(14%), の合計点で評価します。授業への参加度については、個人・ペア・グループワークにおける能動的態度と協調性、主体的な姿勢を尊重し、評価します。

■ 教科書

教科書は使用せず、参考資料をその都度配付します。

■ 参考文献

キャリアルート(自伝や取材記事)に関する書籍をはじめ授業の中で適宜紹介します。

■ 履修者への要望

各回のケースを通して、自分は何を感じたか、どう思うか、もし自分だったらどうするか、どう行動するか、全員が意見を言い、テーマを発展させていきましょう。この科目は2016年度で5年目ですが、毎年度本科目のテーマに共感する履修生が集い、キャリアを語るに安心して安全な場が形成されます。こうあるべき、ねばならぬ的な発想から解放し、いま一度キャリアについて考えていきましょう。授業では、互いの強みを伸ばし合う、コミュニティ・オブ・プラクティス(相互成長の場)を提供します。主体的・能動的に取り組む姿勢、そして社会の一員として当事者意識を持って意欲的に参加することをこの科目の履修条件にします。社会人も頻繁に参加をします。グランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容する“ダイバーシティ”なクラスを全員でつくっていきましょう。

■ 教員との連絡・相談方法

オフィスアワー: 金曜日 12:30~13:30 勝又研究室
メールアドレス: katsumata[at]seiyo.ac.jp ※[at]を@に置き換える。